

令和六年度 第二学期終業式 校長式辞

おはようございます。

一年で最も長い二学期、八月二十八日に始まった二学期が終了します。

記録的とも言われた去年と同じほどの大変暑い夏から、冬真っ盛りになりました。

あと十日ほどで終わる令和六年は、元日の能登半島で震度七の地震が発生したことからは始まり、夏から秋にかけては、(能登半島地方も含め)台風や豪雨による土砂災害や浸水被害が各地で発生しました。幸い、この地域では台風や大雨の災害に遭うことなく、本校として、この二学期終業式を無事迎えられましたことを、まずは大変ありがたく思っております。

今年はオリンピックイヤーで、第三十三回オリンピック競技大会がフランス・パリを中心に開催され、日本は、金二十個を含むメダル四十五個で世界六位、同じく第十七回夏季パラリンピック・パリ大会では、金十四個を含むメダル四十一個で世界十位と、輝かしい活躍をしました。

漢字一字を選び、その年の世相を表す字であるとして決定・公表される日本漢字能力検定協会の今年の漢字は、「金」で、この意味には、オリンピックでの活躍に加え、大谷翔平選手の盗塁と本塁打アメリカプロ野球リーグ史上初となる「五十本塁打五十盗塁」を達成したことも関係しているということです。

そこで、海洋高校生も、オリンピックにも負けないぐらい、全国を舞台に活躍したのだと、伝達表彰で紹介しようとしたのですが、本日は叶いませんので、新年一月八日の第三学期始業式に行いますが、多くの生徒が二学期間だけでも大変活躍し、光栄に思っています。

二学期の始業式には、私から「無理だから」とか「どうせできない」とあきらめずに、「どうしたらできるか」という前向きな気持ちや意欲を持つて、学習や部活動、進路の取組などに挑戦していただきたい」ということをお話ししましたが、さすが海洋高生、一人一人が努力して、それぞれのよい結果につながっています。

例えば、部活動以外でも、三年生は、就職・進学に向けて、日頃の学習に加え、志望理由書や面接練習に精一杯取り組んでいる姿がありました。甲斐あって、これからの人もいます。大部分の人が質の高い希望進路の達成を成し遂げました。

二年生は、学科・コースでの本格的な資格取得や実習、探究活動なども始まり、部活動でも中心になっています。研修旅行も成功裏に終わられたと聞いています。

一年生も海洋高校に慣れ、二年生以降の学科・コースを決定しました。

さて本日は一点です。今年の秋の読書週間前後には、「読書離れ」を課題視する報道が多く見受けられました。大変残念なことに認識しています。そこで、読書の効果(読書で得られるもの)について、ある会社のコラムから抜粋して紹介します。

① 会話力や文章力が向上すること

文章を読んでいく中で、上手な言い回しや普段自分が使わないような文章に触れることが出来るため、自然に文章能力や会話力が上がります。これは面接試験にも通じます。

② 語彙力が向上すること

物や事象を説明したり、ある言葉を他の表現に言い換えたりすることで、相手や場面にあわせて、よりわかりやすく説明・表現することが出来る力のことです。

③ 教養や知識が身に付くこと

読書をすることで、普通に生活しているなかでは出会うことの少ない教養や知識を、

読書をすることで知ることができたら、自分の生き方が変わるきっかけになるかもしれません。

④ 想像力が豊かになること

文章や単語から情景や背景、登場人物の感情や思考を想像することになります。「この人物は今どういった心情なんだろう」や「なぜ筆者はこの本を書いたのか」、「どういった思いを伝えたかったのか」と想像力を働かせることになります。

⑤ アイデアが得られること

本の中には、実際には体験するが叶わない夢のような世界や、自分だったら考えられないアイデアや想像が広がっていたり、過去や未来の様子を覗いたりすることができま

す。

⑥ 人生の中で大きなヒントになるかもしれません。

いろいろな話題を話せること
読書をする事で得た多様な知識は、友人との会話の話題の一つとして取りあげることができるようになります。最近読んだ本は？と面接試験で問われることもあります。

⑦ ストレス解消になること

読書にはストレス解消の効果もあり、散歩をしたりコーヒーを飲んでひと息ついたりするよりも、大きなリフレッシュ効果が期待できます。

もし、もっぱら電子書籍を愛用する場合でも、意識してもらえればと思います。是非、この冬休み、時間を作って読書をしてほしいと思います。

結びに、明日から冬休みです。年末・年始は、それぞれの御家庭での行事もあるかと思いますが、どんな小さなことでもよいので、読書の他、資格試験の予習、苦手科目の学習、趣味でも結構です。何らか自分にとって有益な目標や計画を立て、この冬休みを有意義に過ごしてもらえればと思います。

来年一月八日、全員が元気で、この場に来ってくれることを楽しみにしています。それでは、皆さん、よい年を迎えてください。

令和六年十二月二十日

校長 上林 秋男